

令和4年度 第1回子ども部会 議事録

日 時：令和4年5月13日（金） 11：00 ～ 12：00

場 所：奄美市市民交流センター 3階大多目的室

参加者：愛かな、あすなろ、シエル、スターズ、にこぴあ、のぞみ園、はごろもの郷、ヒマワリクラブ、ヒマワリ就学塾、チャレンジサポート奄美、つなぐ、相支：のぞみ園、奄美市教委、大島養護、名瀬保健所、奄美市福祉政策課、奄美市健康増進課、ぴあリンク奄美

リモート：ここ、聖隷かがやき

見 学：奄美看護学校生3名（奄美市健康増進課 実習） ※敬称略 参加者：28名

1.参加者自己紹介

2.報告

①事務局より（※別紙資料参照）

- ・令和3年度振り返り及び令和4年度計画について
- ・令和4年度そだちサポートプロジェクトについて

②新型コロナウイルスへの対応に伴う障害児通所における在宅での支援について （奄美市福祉政策課）

3.協議事項（課題と感じている事/話したい事）

①奄美地区における発達検査について

○地域の現状

- ・地域によっては、支援が必要な児童が利用できてない現状もある。（地域での偏見 等）
- ・小中学生で支援を受けておらず、年齢があがってから相談に繋がると対応が困難になる。
- ・鹿児島から転勤で来る場合は、ほとんどの方が、検査実施済（療育センター以外でも一般のクリニック等で実施）。
- ・通常学級在籍児の相談増。
- ・昨年度の相談依頼内訳は、学校（小学校が一番多い）、事業所（放デイ、相談支援）、医療機関からが多くそれぞれ1/3ずつ
- ・市町村単位だと、奄美市が圧倒的に多い。次いで瀬戸内。
- ・喜界島で保育士が田中ビネー検査の研修を受講予定

○年代ごとのアセスメント状況

【乳幼児期】

- ・1歳半健診、3歳児健診（市町村が開催）
保健師による早期発見後、親子教室や療育につなげている。
- ・発育発達クリニック（保健所が開催 年4回、30人程度、田中・ビネー検査）

- ・保育士による気づき
- ・巡回相談（鹿児島県療育センター実施年 1 回、1 泊 2 日で来島し 15 人程度）

【就学前】

- ・就学前検査（以前は各事業所で就学前に実施。⇒最近は、各自、児相に行くように変更。）
- ・就学前健診（市町村教育委員会が実施 年 1 回 年長児）
- ・就学相談会（市町村教育委員会が実施 ※実施、実施回数は自治体による）

【思春期】

- ・思春期相談（CS 奄美が県療育等支援事業にて実施）
⇒低学年での WISC 実施により、学校での配慮に繋がり、スキルが身につく。（心理士の見立てによる説明で「苦手」「得意」を理解しやすくなる）

【成人】

- ・心理士相談（CS 奄美が実施。 WAIS-IV）

○地域資源の現状確認

○教育行政の発達検査等に関する認識について

- ・県教委の方針
- ・今後の方向性

○課題

【検査の専門性】

- ・発達検査では、専門性を持った心理士の見立てと説明が重要。（数字が独り歩きするのが怖い。）
⇒適切な検査、見立てで、それぞれの児童の得意な情報処理方法の違いなど理解でき支援に繋がる。
- ・WISC-Ⅲと WISC-IVでは、検査結果に開きがでる。

【県療育等支援事業の現状】

- ・県療育等支援事業の要綱では発達検査が目的ではないとされている。
- ・ほかの検査に関しても就学等に向けた検査をしてはいけないとなっている。
⇒安易に検査してはいないが、ニーズがある時には対応するようにしている。
⇒鹿児島からの旅費は含まれないため、療育等支援事業受託法人が負担している。

【就学に向けた県の方針】

- ・県教委が求める就学時発達検査（数値）について。
⇒離島の現状として検査機関がない現状。

○今後について

- ・ 地域で就学前検査を行える人材の育成（WISC-IVを出来る体制づくり）
- ・ 県教委へ離島などの不便さも考慮した、検査できる体制づくりへの協力を要望。

※現状把握と体制づくりを進めていく。

⇒チャレンジドサポート奄美を中心に地域検討会を開催。年間を通して協議していく。

②放課後等デイの情報交換会について

- ・ 並行利用の児童が多いため、事業所同士で情報共有する場を作りたい。

⇒のぞみ園を中心に、実施方法を検討。実施に向け計画していく。

4.その他

○北部地区子ども支援 net の開催について（部会資料参照）